

**製品名: UBE2G1 ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab19521**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	IHC, ICC/IF, ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率 IHC 1:100-1:300, ICC/IF 1:50-1:200, ELISA 1:20000-1:40000

分子量

**抗原情報**

遺伝子名	UBE2G1
別名	UBE2G1; UBE2G; Ubiquitin-conjugating enzyme E2 G1; E217K; UBC7; Ubiquitin carrier protein G1; Ubiquitin-protein ligase G1
遺伝子 ID	7326.0
SwissProt ID	P62253
免疫原	ヒト UBE2G1 の内部領域から得られた合成ペプチド。

**背景**

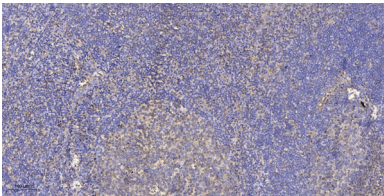
ユビキチンによるタンパク質の修飾は、異常なタンパク質や短寿命タンパク質を分解対象とする重要な細胞機構です。ユビキチン化

には、少なくとも3種類の酵素、すなわちユビキチン活性化酵素 (E1)、ユビキチン結合酵素 (E2)、そしてユビキチンタンパク質リガーゼ (E3) が関与します。この遺伝子は、E2ユビキチン結合酵素ファミリーのメンバーをコードし、ユビキチンと他のタンパク質の共有結合を触媒します。このタンパク質は、筋肉特異的タンパク質の分解に関与している可能性があります。[RefSeq 提供、2008年7月];触媒活性:  $ATP + \text{ユビキチン} + \text{タンパク質リジン} = AMP + \text{二リン酸} + \text{タンパク質 N-ユビキチルリジン}$ 。機能: ユビキチンと他のタンパク質の共有結合を触媒します。筋肉特異的タンパク質の分解に関与している可能性がある。経路: タンパク質修飾; タンパク質ユビキチン化。類似性: ユビキチン結合酵素ファミリーに属する。組織特異性: 主に骨格筋で広く発現している。

## 研究分野

ユビキチンを介したタンパク質分解、パーキンソン病

## 画像データ



パラフィン包埋ヒト扁桃腺の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:200 に希釈した (4°Cで一晩)。2、抗原賦活化には Tris-EDTA、pH9.0 を使用した。3、二次抗体を 1:200 に希釈した (室温、30分)。